

2025 年度
(令和 7 年度)
事業報告書

2025. 4. ～2026. 3

公益財団法人 神経研究所

2025 年度 事 業 報 告 書

I. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

1. 2025 年 6 月 4 日（水）定時理事会

- 1) 2024 年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2024 年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 任期満了する理事 高橋清久氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 4) 任期満了する理事 井上雄一氏の重任について定時評議員会へ推薦することを決議
- 5) 理事 福原俊明氏の退任(2025 年 9 月 30 日付)を定時評議員会に報告することを決議
- 6) 本多 真氏の理事就任(2025 年 10 月 1 日付)について定時評議員会へ推薦することを決議
- 7) 事務局長代理山田哲哉氏の事務局長就任について定時評議員会へ報告することを決議
- 8) 定時評議員会の招集及び開催について

2. 2025 年 6 月 26 日（木）定時評議員会

- 1) 2024 年度事業報告書の審議及び承認
- 2) 2024 年度決算報告書及び監査報告の審議及び承認
- 3) 理事会より再任推薦の理事 高橋清久氏の審議及び承認
- 4) 理事会より再任推薦の理事 井上雄一氏の審議及び承認
- 5) 理事会より報告の理事 福原俊明氏の退任(2025 年 9 月 30 日付)を審議及び承認
- 6) 理事会より推薦の理事候補者 本多 真氏の理事就任(2025 年 10 月 1 日付)を審議及び承認
- 7) 理事会承認の事務局長代理山田哲哉氏の事務局長就任を報告
- 8) 2025 年 3 月 27 日評議員会で承認された監事候補者斎藤 隆氏の 2025 年 6 月 26 日付監事就任の確認

3. 2026 年 3 月 4 日（水）定時理事会

- 1) 2026 年度事業計画書の審議及び承認
- 2) 2026 年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2026 年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 育児・介護休業に関する規程変更について審議及び承認
- 5) 不二建設㈱訴訟について報告
- 6) 福祉作業所の設置について審議及び承認
- 7) 評議員会の招集及び開催について

4. 2026 年 3 月 24 日（火）評議員会

- 1) 2026 年度事業計画書の審議及び承認
- 2) 2026 年度収支予算書の審議及び承認
- 3) 2026 年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- 4) 育児・介護休業に関する規程の変更について審議及び承認
- 5) 不二建設㈱訴訟について報告
- 6) 福祉作業所の設置について審議及び承認

II. 再開発事業の完了と再スタートについて

神経研究所本部及び晴和病院の新築工事は2025年3月14日竣工、4月1日にオープンすることができ、6月6日に所有権保存登記も完了した。

下記に建築概要を挙げる。

住所	東京都新宿区弁天町91番地
主要用途	病院その他の複合施設
病床数	精神一般病床 52床、精神療養病床 52床
敷地面積	2,619.36 m ²
建築面積	1,825.02 m ²
延べ面積	7,542.16 m ²
主体構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
基礎	杭基礎
階数	地下1階(外苑東通りレベル)地上6階
工期	2023年3月15日 ～ 2025年3月14日
設計・監理	株式会社岡田新一設計事務所
施工	不二建設株式会社

III. 各事業年度における公益目的事業の実施状況

2025年度は従来の精神医学・神経科学・睡眠医学の研究を進め、その臨床的応用を図ることを目的とすること及び精神保健の普及を目的とする事業に加え、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業もスタートすることができた。2025年度における具体的な公益目的事業の実施状況は、以下のIVからVIIの記載の通りである。

IV. 臨床部

1. 附属晴和病院

1) 入院

2025年4月、小石川東京病院からの継続入院患者38人で新病院の稼働がスタートした。

1日平均在院患者数が5月には60.3人6月には72.3人、11月には81.6人と順調に推移したが、2026年1月から3月は70人台前半と停滞した。また、睡眠呼吸障害クリニックの入院機能を晴和病院に移行して、こちらでも4月から稼働した。こちらは6月の延患者130人をピークに、検査技師の退職と並行して、80人前後で推移しているが、クリニックに比べ医療単価が3割程度高額なことから、影響は限定的であった。年間平均在院日数は30.9日で、クリニックの入院機能の移転も大きく影響して、前年度の45.7日から15日程度短縮した。精神科としては異例の短さである。発達障害診療と睡眠障害診療は当院の大きな特色であり、それを支える臨床心理士及び睡眠検査技師の数的、質的確保が急務である。アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間及び3週間の検査入院の維持、発達障害患者の約20%が該当するといわれる睡眠障害の検査入院の確保は、新しい精神科診療としての成果が期待できると考えている。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
延在院患者数	15,132	17,094	19,198	17,528	25,679
1 日平均在院患者数	41.5	46.8	52.5	48.0	70.4
平均在院日数	40.0	41.1	48.6	45.7	30.9
1 人 1 日平均単価	21,261	20,217	18,978	19,836	19,777

2) 外 来

外来の年間 1 日平均患者数は 146.1 人と前年度の 141.2 人、前々年度の 135.9 人から堅調に上方で推移し、新患者は 1,091 人と前年度の 777 人から大きく増加した。発達障害と睡眠障害の増加傾向は継続しており、統合失調症の減少傾向及びうつ病や神経症圏の患者の漸減傾向がうかがえる。発達障害の中でも ADHD の一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということになるが、入院の項でも述べたが、検査入院の充実を図るとともに、研究面も含めて発展に努めたい。

6 年目を迎えた訪問診療は 2023 年度の 145 件から 2024 年度は 171 件、2025 年度は 166 件と訪問回数に比例した安定件数で推移している。引き続き、引きこもり、睡眠障害、認知機能の低下した患者など、通院が困難な患者を、公的機関や近隣医療機関と連携して、引き受けていきたい。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
延外来患者数	3,3941	34,466	36,154	36,434	37,401
新規患者数	713	986	950	777	1,091
1 日平均患者数	128.1	129.6	135.9	141.2	146.1
1 人 1 日平均単価	5,848	6,197	6,220	6,305	6,124

3) デイケア

2025 年度は、月間平均利用者数が 582 名（前年度比 115%）、平均日当円は 129,392 円（前年度比 +114%）であった。増加の要因については、昨年に引き続きデイケア利用者のアセスメントを行い、各利用者の目標に合わせてデイケア通所方法や日数について目標設定を行ったことが挙げられる。各個人の目標が意識されやすく、確実な通所に繋がり、利用者増加に結び付いた結果となっている。リワークコースでは、復職に向けて確実に出勤できる状態にすること、また生活支援コースではデイケア通所に留まるのではなく、就労移行など次のステップにつなぐことが出来、デイケアの治療的役割を十分に提供していくことに繋がりがつつある。

今後の課題としては、特にリワークコース利用者のリクルートが挙げられる。当院のデイケアの特色（発達障害専門コースがあり、ケースによってはコース併用が可能であること、など）を外部に発信し、企業や就労系の事業所、またデイケアを持たないクリニックなどと情報交換や連携していく必要があると考える。また発達専門プログラムについては、新規の参加者を受け入れていくために、長期の参加者に対してクール性を設けるなど、デイケアが常に循環しながら発展していけるように引き続き努めていきたい。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
ショート・ケア算定回数	3,115	3,100	3,557	3,493	3,944
デイケア算定回数	1,581	1,845	1,953	2,464	2,948

4) 看護部

看護部は「安全管理・感染管理の基本方針を徹底し実践する」「接遇を向上させ患者・家族から信頼される看護を提供する」「病院経営に積極的な参画をする」を目標として取り組んだ。今年度も年間を通じ地域一般入院料 15 : 1、看護補助者加算 30 : 1、看護補助体制充実加算を算定することができた。看護師の昨年の離職率は 12.5%と新病院に移転したこともあり比較的低値で定着してきたと思える。新晴和病院への移転、電子カルテの導入から 1 年が経過した。当初はハード、ソフトともに手探り状態の日々であったが、やっと運用も落ち着いてきたと思える。しかし入院患者数が予測した通りに伸びず逆に平均在院日数が増加傾向にある。発達障害、睡眠障害の検査入院と当院の入院の特徴の一つでもある休息入院をうまく活用していただき、病床稼働率が向上するよう努めていく。新年度に入り相次いで新たなスタッフが入職した。伝統を守りながらも新しい様々な意見を取り入れ、患者から信頼され続ける病院となるように邁進していく。

5) 実習の受け入れ

(1) 医療相談課

- ・東京福祉専門学校 チャレンジプログラム
「精神科病院と精神保健福祉士の役割」2025 年 10 月 16 日、23 日（2 回）

(2) 臨床心理課

- 臨床心理士・公認心理師実習（大学院生）
 - ・跡見女子大学大学院：2025 年 5 月～8 月 1 名
 - ・駒沢女子大学：2025 年 10 月～2026 年 3 月 1 名
 - ・聖心女子大学大学院：2025 年 10 月～2026 年 3 月 1 名
 - ・昭和女子大学大学院：2025 年 10 月～2026 年 3 月 1 名
 - ・東京女子大学大学院：2025 年 10 月～2026 年 3 月 1 名
 - ・早稲田大学大学院：2025 年 8 月～11 月 1 名
- 公認心理師見学実習（学部生）
 - ・東京未来大学学部見学実習：12 名

(3) 看護部

- ・東京衛生学園専門学校看護学科：2025 年 4 月～5 月（精神看護学実習 2 クール計 12 名）
- ・東京女子医科大学看護学部：2025 年 6 月（精神看護学実習 2 クール計 10 名）
- ・東京医薬専門学校看護学科：2025 年 2 月・2025 年 6 月～9 月
（精神看護学実習 5 クール計 25 名）
- ・東京工科大学医療保健学部看護学科：2025 年 7 月（統合実習 1 クール 2 名）
2025 年 9 月～11 月（精神看護学実習 4 クール計 15 名）
- ・文京学院大学保健医療技術学部看護学科：
2025 年 10 月～2026 年 1 月（精神看護学実習デイケア 7 クール 21 名）

(4) 作業療法課

・宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

：2025 年 4 月 14 日～6 月 7 日 2 名

2. 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成 11 年 11 月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによる PSG を多数施行している。治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAP の治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。2025 年度からは晴和病院の開院にともない PSG、MSLT の検査は晴和病院に移行した。協力しながら睡眠障害の診療にあたる。

【2025 年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間平均 1,125 年間延べ 13,502 名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)管理患者数 1,803 名

V. 福祉サービス部

1) 東京都発達障害者支援受託事業「おとな TOSCA」

2023 年 1 月からスタートした、東京都発達障害者支援委託事業「おとな TOSCA」も 4 年目に入った。業務内容は発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導などを含み、中核医療機関である当法人を含む専門医療機関へのつながりや、有料の心理相談、法律相談など新病院での新規事業につながる取り組みは、当法人の理念達成に寄与すると確信した。2025 年度相談件数は 2,086 件で、内 ASD29.0%、ADHD14.1%など発達障害者等からの相談は全体の約 4 割強、発達障害に似て非なる方からの相談は約 6 割弱と、前年度と同様な傾向の統計も出ている。これらをもとに、相談者全ての方が満足できるように、医療や生活の質改善への取り組みを行政と共に構築したいと考えている。

2) 附設生活支援センター和(Nico)

社会復帰や社会参加の基盤となる日常生活の自立に焦点を当てた訓練を提供する福祉施設として、2025年10月に生活訓練施設(通所)20人、宿泊型自立訓練10室の規模でスタートした。生活訓練施設(通所)の1日平均利用者数は3月実績3.5人と定員には余裕はあるが、参加者の認知特性や理解度に合わせ、プログラムの変更、修正など試行錯誤の連続である。宿泊型自立訓練では入所者自らの選択と決断で日常生活を作り上げるための課題や達成状況の把握ができることは今までの法人内になかった視点である。こちらの1日平均利用者数は3月実績6.0人であった。

3) 新宿区地域活動支援センター晴(Halu)

2025年4月新宿区内に住所を有する精神障害(発達障害含む)のある方や生きづらさを抱える方およびその家族などが地域で安心して暮らせることを支援する場、社会とつながりを感じられる場所を提供することを目的に、地域活動支援センターⅡ型(定員15人)として、新宿区の補助を受けてスタートした。新宿区居住と限定的であり、開設した4月の登録者は2人(1日平均利用者数0.3人)であったが、年度末には登録者数42人(1日平均利用者数4.5人)まで増加した。

VI. 精神神経科学センター

1. 助成事業

公募による助成

(1) 学術研究助成 睡眠健康推進委員会(書面)

開催回数:1回

2025年10月27日開催時の申請件数8件 採択3件

①睡眠科学分野1件

申請者 高橋 久理(筑波大学高等研究院)

課題名「夢感情の神経基盤の解明に向けた挑戦」

②睡眠医学分野1件

申請者 羽澄 恵(日本医科大学 医療心理学教室 准教授)

課題名「夜間睡眠困難と睡眠・覚醒リズムへの横断的心理介入によるSocial Jet Lagと学業従事状況の効果」

③睡眠社会学分野1件

申請者 高野 裕太(東京医科大学 睡眠学寄附講座 講師)

課題名「青少年の生活習慣と睡眠健康に関するアジア多国間比較」

(2) 大沼賞(てんかん医療志向若手育成事業)大沼賞選考委員会(書面)

開催回数:1回

2025年5月27日開催時の申請件数 ①学会参加4件 採択4件

②研究助成6件 採択3件

① 学会参加助成4件

申請者①-1 梅田 真洋(国立精神・神経医療研究センター てんかん診療部レジデント)

36th International Epilepsy Congress 2025年8月30日～9月3日

ポルトガル リスボン

申請者①-2 小林 揚子(国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経小児科レジデント)

The 24th annual meeting of Infantile Seizure Society 2025年7月17日～7月19日

マレーシア クアラルンプール

申請者①-3 二宮 敦彦(東北大学大学院 神経外科学分野 非常勤講師)

36th International Epilepsy Congress 2025年8月30日～9月3日

ポルトガル リスボン

申請者①-4 加藤 英生(国立病院機構 下総精神医療センター 精神科 医師)

5th International Summer School of Neuropsychology

2026年4月19日～2026年4月24日

フランス エランクール＝サント＝マルグリット

② 研究助成3件

申請者②-1 斉藤 聡志(国立精神・神経医療研究センター病院 てんかん診療部
上級専門修練医)

課題名「てんかん患者における抑うつ症状とNDDI-E水位の意義：発作頻度・精神科的介入との関連」

申請者②-2 上田 哲也(順天堂大学 脳神経外科 助教)

課題名「発作時脳波におけるPhase-Amplitude Coupling(PAC)解析を用いた客観的てんかん
焦点診断指標の確立とてんかん発作発生機序の解明」

申請者②-3 高橋 優輔(東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 博士課程 臨床
神経精神医学講座 大学院生(D1))

課題名「てんかんモニタリングユニット入院患者における小児期逆境体験(ACEs)と心理学的・
神経生理学的指標との関連」

2. 普及啓発事業

1) 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

(1) 出張睡眠市民公開講座：実施6件

- ・愛媛県八幡浜市 2025年8月5日(火) 一般市民、保健師など 63人
- ・滋賀県愛荘町 2025年8月5日(火) 健康推進員養成講座受講者、スタッフ 11人
- ・神奈川県藤沢市 2025年8月8日(金) 藤沢市在住・在勤・在学の方 48人
- ・静岡県三島市 2025年12月16日(火) 保健委員 28人
- ・東京都東久留米市 2025年9月21日(日) 一般市民 22人
- ・茨城県ひたちなか市 2026年1月20日(火) 一般市民 約60人

(2) 学校訪問型睡眠講座：実施50件、中止2件

- ・沖縄市立美東小学校 2025年5月13日(火) 6年生130名、教師5名
- ・盛岡中央高等学校附属中学校 2025年5月14日(水) 中学生99名、教師11名
- ・仙台市立長町中学校 2025年5月23日(金) 1年生250人、教師13人
- ・那須塩原市立三島中学校 2025年5月27日(火) 中学生640名、教師40名
- ・神戸市立友生支援学校 みなと分教室 2025年6月13日(金) 小学生13人、中学生8人、
教師10人
- ・岐阜県御嵩町立上之郷中学校 2025年6月13日(金) 中学生34人、教師8人
- ・郡上市立高鷲中学校 2025年6月18日(水) 中学生70名、教師13名、保護者12名
- ・岐阜県八百津町立八百津中学校 2025年6月18日(水) 中学生60人、教師4人
- ・中津川市立阿木小学校 2025年6月27日(金) 教師10人、保護者40人
- ・四日市市立西陵中学校 2025年7月1日(火) 中学生149名、教師14名
- ・富士市立富士川第一中学校 2025年7月4日(金) 中学生48名
- ・竹富町立黒島小中学校 2025年7月9日(水) 5年生5名、中学生8名、教諭2名、養護教

論1名

・熊本市立日吉東小学校 2025年7月10日(木) 小学生180人、教師5人、保護者10人、保健師1人

・周南市立菊川小学校 2025年7月11日(金) 小学生210人、教師11人

・春日市立大谷小学校 2025年7月15日(火) 小学生200名

・鈴鹿市立白子中学校 2025年7月15日(火) 中学生830名、教職員50名

・三重県立あけぼの学園高等学校 2025年7月15日(火) 高校生190人、教職員25人

・橘学苑中学校 2025年7月16日(水) 中学生14人、教師3人、保護者7人

・神戸市立有野中学校 2025年7月16日(水) 中学生540人

・福井市岡保小学校 2025年7月16日(水) 小学生26人、教師4人

・藤井寺市立道明寺中学校 2025年7月17日～19日 中学生1400人、教師150人、保護者1400人

・学校法人旭出学園 旭出学園(特別支援学校) 2025年7月17日(木) 高等部生徒34名、教師9名

・仙台市立高森小学校 2025年7月18日(金) 小学生および教師47名

・沖縄県国頭村立辺土名小学校 2025年9月2日(火) 小学生70名、教師6名

・吉川市立栄小学校 2025年9月2日(火) 教職員30名、保護者5名

・豊田市立梅坪台中学校 2025年9月11日(木) 中学生280名

・糸満市立真壁小学校 2025年9月12日(金) 小学生75名、教師7名、保護者30名

・山県市立大桑小学校 2025年9月26日(金) 小学生22名、教師6名、保護者1名

・愛媛県鬼北町立三島小学校 2025年9月29日(月) 小学生28人、教職員9人、学校運営協議会委員3人、保護者12人、栄養教諭1人、保健師1人

・洗足学園小学校 2025年10月7日(火) 保護者70人、教師3人

・神戸市立千鳥が丘小学校 2025年11月6日(木) 小学生136名、教師11名、指導主事2名、保護者1名

・埼玉県寄居町立男衾小学校 2025年11月6日(木) 保護者40名、学校医2名、学校歯科医2名、学校薬剤師1名、教職員5名

・小牧市立北里中学校 2025年11月21日(金) 中学生385人、教師30人

・山梨県富士川町立鰍沢小学校 2025年11月21日(金) 小学生30人、教師6人、保護者4人、地域関係者2人

・高岡市立牧野小学校 2025年11月26日(水) 小学生391名、教職員27名、PTA2名

・神戸市立西落合中学校 2025年12月3日、4日、22日 中学生300名、教師20名

・富士宮市立柚野小学校・富士宮市立柚野中学校 2025年12月3日(水) 小中学生98人、保護者3人

・防府市立右田小学校 2025年12月4日(木) 小学生133人、中学生330人、教職員39人、保護者4人

・各務原市立鵜沼中学校 2025年12月5日(金) 中学生151人、教師10人

・三好市立榎生小学校 2025年12月5日(金) 小学生11人、教師7人、保護者9人

・宮崎市立清武小学校 2025年12月9日(火) 小学生147名、教職員8名、保護者1名

・江戸川区立小岩第二中学校 2025年12月10日(水) 中学生192人、教師9人

・富士吉田市立下吉田第一小学校 2025年12月11日(木) 教職員10名、保護者24名

・静岡県函南町立西小学校 2025年12月12日(金) 小学生54人、教員6人、保護者3人

・館林市立第十小学校 2025年12月17日(水) 小学生73人、教師4人

・真岡市立大内中学校 2025年12月18日(木) 生徒110名、教師13名、保護者5名

・静岡市立清水辻小学校 2026年1月21日(水) 5・6年生95人、教師7人、保護者5人、近隣校養護教諭5人

- ・鹿屋市立高隈小学校 2026 年 2 月 5 日（木） 保護者 8 人、教師 4 人
- ・いわき市立永崎小学校 2026 年 2 月 10 日（火） 5・6 年生 80 人、保護者 5 人、教師 5 人
- ・北埼玉学校保健会養護教諭・保健主事部会 2026 年 2 月 18 日（水） 養護教諭、保健主事 58 人

(3) 企業訪問型睡眠講座

- ・川崎市多摩市民館 2025 年 7 月 6 日（日）
- ・株式会社ウェルシード（@めぐみる金山） 2025 年 7 月 25 日（金）
- ・静岡県立大学短期大学部キャリア支援センター 配信期間：2025 年 10 月 31 日～11 月 30 日

(4) 睡眠健康推進機構長賞授与

太田睡眠科学センター 伊藤洋先生へ授与。「ニュースレター」に記事を掲載した。

3. 広報活動

1) ニュースレター発行回数：2 回

No. 6:2025 年 8 月発行、No. 7:2026 年 2 月発行

VII. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の 3 部門に分けられる。しかし臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在是在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で客員研究員が行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHD と過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探索する研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」（主任研究者：高橋英彦東京科学大学教授）が 2023 年度で終了した。「国際脳」が終了してAMEDも模様替えをしている状況であり、今後共同研究などによって、当院での発達障害症例の蓄積を生かした研究が発展していくことを期待したい。令和 7 年（2025 年）度より厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「思春期以降の発達障害者や家族の多様なニーズに対する専門的な相談やプログラム開発に向けた研究」を加藤進昌が代表研究者として採択された。今後 3 年間にわたって全国の発達障害支援センター機能の均てん化を図ることを目的としている。

1. 睡眠学センター

1) 閉塞性睡眠時無呼吸患者の受療行動に関する研究（第二報）

既報において、閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）での受診行動が、体型上のリスク（肥満）や他覚的ないびき・無呼吸の存在に依存せず、心血管系合併症の存在と関連することを 2018 年の土木健保組合のレセプト・健康調査アンケートを用いて報告したが、今回は 2019 年（1 年後）のデータを用いて追加解析した。結果、新規のいびき・無呼吸発現、心血管系症状の発現は受診に結びついておらず、3 年以上前からの心血管合併症が 2019 年度の受診と関連していた。これらの所見は、OSA に関する問題意識は未だ低く、心血管系合併症が持続した場合にのみ受診に結びつくことから、疾患啓発の重要性が痛感された。

2) 不眠症での睡眠衛生実態の研究

睡眠衛生は、睡眠健康を保持し不眠を抑制する上で重要なライフスタイル指標であるが、実際

の不眠症者でどのような睡眠衛生項目に問題があるかは、明らかにされていない。本研究では、48 項目からなる睡眠衛生スケールを用いて、2000 人の不眠有症状人口の中で実態を調べた。結果、運動習慣や食習慣、寝室環境の問題は意外と少なく、睡眠覚醒スケジュールの問題、覚醒亢進・不安強化に関わる項目得点が高いものが多いことが確認された。これらは、不眠症患者に対して早期に認知行動療法を導入することの重要性を示しているものと考えられた。

3) オレキシシン受容体拮抗薬の不眠治療終結に関する研究

既存のベンゾジアゼピンならびに受容体アゴニスト (BZDs) による不眠症治療は、治療が長期化しやすくかつ耐性・依存形成が懸念される。本研究では、土木健保組合のレセプトデータを用いて、BZDs、メラトニン受容体作動薬 (Mel)、オレキシシン受容体拮抗薬 (DORA) 処方を受け、3 か月以内の脱落例 (非反応による処方変更) を除いて、その後の治療終結 (他の睡眠薬への変更がないもの) を調べた。結果 DORA は BZDs ならびに Mel に比べて服用中止が早く、Cox-Hazard 解析でも DORA 使用者であること、若年であることが早期治療終結の関連要因となった。これより、本系薬剤が依存形成を伴わず、効率的に不眠症治療を終結するための tool になりうるものと考えられた。

4) ナルコレプシー疫学調査

ナルコレプシー特に情動脱力発作と髄液オレキシシン低下を伴う type1 は希少疾患として知られているが、その有病率について、質問紙調査と電話インタビュー、最終に医師の面接と睡眠ポリグラフ (PSG)・反復睡眠潜時検査 (MSLT) を組み合わせた調査はごく少ない。われわれは、50000 人の一般人口 (40 歳未満) に対して Swiss Narcolepsy Scale による一次スクリーニングの後、電話インタビュー、さらにこれらで陽性だったケースについては PSG/MSLT を実施して調査を行った。結果、ナルコレプシー type1 の有病率は 10 万人あたり 8 人程度であったが、客観的に眠気水準が亢進しており、情動脱力発作が存在するにもかかわらず入眠期 REM 睡眠がみられない症例が散見され、これらを加えると 10 万人あたり 12 人程度になると考えられた。

2. 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2025 年度末までの累計初診患者数はおよそ 3,929 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケアも順調に推移している。ASD、ADHD 向けプログラムの総登録者は 452 件に達している。2020 年度からはコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けた。結果としてコロナによる受診回避は驚くほど少なかった。これは ASD 者が多かったためと考えられる。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、2025 年度までの総件数は 154 件になっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング (特別予約診療費: 5,000 円) に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。この検査入院は心理士の負担が大きいのでスタッフの増員が避けられな

い。今後の検討課題である。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム（ASD、ADHD）だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらのプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、2021年度からスタートした昭和医科大学発達障害医療研究所の五十嵐美紀研究員を代表者とする日本医療研究開発機構（AMED）の「自閉スペクトラム症（ASD）当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築」の研究が終了した。2025年10月にスタートした宿泊型自立訓練施設は、この研究成果を実装する試みということが出来る。

こうした日頃の実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関（東京都拠点医療機関）として認められ、2020年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行っている。この活動は2025年度以降も継続的に展開する予定である。

2023年1月から、東京都発達障害者支援センター委託事業「おとなTOSCA」をスタートした。業務内容は18歳以上の発達障害者本人、家族、職場からの電話相談や各行政担当者への指導、研修などである。発達障害支援法によって各都道府県には発達障害支援センターの設置が義務付けられており東京都では社会福祉法人嬉泉が20年来委託を受けて支援センターを運営してきた。しかし近年は成人の発達障害に関する相談が全体の7～8割を占めるようになっていった。そのため支援センターを「成人部門」と「児童部門」にわけて、前者を当法人がもっぱら受け持つこととして組織されたものである。当法人の特色である成人発達障害に対する専門外来やショートケアプログラムによる治療的試みが評価されたものということができる。当法人が計画している新・晴和病院の事業にも資することが大きいと期待される。2025年度にはTOSCAに寄せられた直近1年間の相談件数は、実人数にして年間約2,100件であった。これ以外にも、年3回実施する地域支援者に向けた支援力向上研修をはじめ、普及啓発のための研修活動も大きな任務であり、その活性化を図っている。

3. 倫理審査委員会（2025年4月～2026年3月）

開催回数：3回

（2025年7月25日（金）、2025年11月18日（火）、2026年3月17日（月）開催）

2025年7月25日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 なし

2) 新規提出 7件

① 申請者 宮岡 佳子

第243号

「成人期発達障害女性を対象とした通院集団精神療法の開発と効果

② 申請者 武田 俊信

第244号

「注意欠如多動症へのスティグマインタビュー研究」

③ 申請者 碓水 章

第245号

「深部体温位相と反復睡眠潜時検査結果との関連性—非侵襲的体温センサーを用いて」

④ 申請者 松井 健太郎

第246号

「ナルコレプシータイプ2 診断の再評価：臨床経過と HLA 型による縦断的解析」

⑤ 申請者 井上 雄一

第 247 号

「健康保険組合のレセプトおよび睡眠・生活習慣に関する問診票回答データ分析による、睡眠とメンタルヘルス増進に關与する要因の包括的分析」

⑥ 申請者 志村 哲祥

第 248 号

「エクソソーム療法利用における加齢性の睡眠の質の変化に対する用量反応性の検証」

⑦ 申請者 志村 哲祥

第 249 号

「ストレスチェック・睡眠検診コホートデータ分析による、睡眠およびメンタルヘルス改善要因の包括的分析」

3) 再提出 1 件

① 申請者 井上 雄一

第 209 号-6

「レストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

2025 年 11 月 18 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 5 件

① 申請者 武田 俊信

第 244 号-2

「注意欠如多動症へのスティグマインタビュー研究」

② 申請者 宮岡 佳子

第 243 号-2

「成人期発達障害女性を対象とした通院集団精神療法の開発と効果—マインドフルネスとコーピングを中心に—」

③ 申請者 中山 秀章

第 199 号-6

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中および夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの件等」

④ 申請者 碓氷 章

第 245 号-2

「深部体温位相と反復睡眠潜時検査結果との関連性—非侵襲的体温センサーを用いて」

⑤ 申請者 松井 健太郎

第 246 号-2

「ナルコレプシータイプ2 診断の再評価：臨床経過と HLA 型による縦断的解析」

2) 新規提出 5 件

①申請者 森下 千尋

第 250 号

「成人ボランティアのストレス・パーソナリティ特性・睡眠と不安・抑うつ・月経前不快気分障害症状・認知機能・機能レベルの関連の機序」

② 申請者 森下 千尋

第 251 号

「一般成人のストレス・気質・睡眠・概日リズムと不安・抑うつ・Well-being・認知機能の関連の機序」

③ 申請者 森下 千尋

第 252 号

「月経前不快気分障害発症における心理社会的因子の関与」

④ 申請者 森下 千尋

第 253 号

「一般成人の抑うつ・不安に対するストレス・パーソナリティ特性の影響」

⑤ 申請者 志村 哲祥

第 254 号

「精神疾患を抱える親を持つ子どもの成人期メンタルヘルスと睡眠：ケア負担・病状共有・肯定的小児体験による緩衝機序の検証」

3) 再提出 7 件

① 申請者 本多 真

第 35 号-3

「過眠症（ナルコレプシー）の病態に関わる脳内の遺伝子発現制御に関する研究」

② 申請者 本多 真

第 188 号-7

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および抹消血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

③ 申請者 本多 真

第 208 号-5

「脳脊髄液中のオレキシシン定量および過眠症関連分子の解析」

④ 申請者 志村 哲祥

第 248 号-2

「エクソソーム療法利用者における加齢性の睡眠の質の変化に対する用量反応性の検証」

⑤ 申請者 志村 哲祥

第 249 号-2

「ストレスチェック・睡眠検診コホートデータ分析による、睡眠およびメンタルヘルス改善要因の包括的分析」

⑥ 申請者 井上 雄一

第 209 号-7

「ストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

⑦ 申請者 井上 雄一

第 247 号-2

「健康保険組合のレセプトおよび睡眠・生活習慣に関する問診票回答データ分析による、睡眠とメンタルヘルス増進に関与する要因の包括分析」

2026 年 3 月 17 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 5 件

① 申請者 碓氷 章

第 245 号-3

「深部体温位相と反復睡眠潜時検査結果との関連性—非侵襲的体温センサーを用いて」

② 申請者 本多 真

第 188 号-8

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および抹消血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

③ 申請者 森下 千尋

第 250 号-2

「成人ボランティアのストレス・パーソナリティ特性・睡眠と不安・抑うつ・月経前不快気分障害症状・認知機能・機能レベルの関連の機序」

④ 申請者 森下 千尋

第 252 号-2

「月経前不快気分障害発症における心理社会的因子の関与」

⑤ 申請者 森下 千尋

第 253 号-2

「一般成人の抑うつ・不安に対するストレス・パーソナリティ特性の影響」

2) 新規提出 1 件

①申請者 中山 秀章

第 255 号

「閉塞性睡眠時無呼吸に合併する複合睡眠障害の実態に関する研究」

3) 再提出 5 件

① 申請者 井上 雄一

第 209 号-8

「レストレスレッグス症候群および慢性不眠症における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

② 申請者 井上 雄一

第 247 号-3

「健康保険組合のレセプトおよび睡眠・生活習慣に関する問診回答データ分析による、睡眠とメンタルヘルス増進に関与する要因の包括的分析」

③ 申請者 志村 啓祥

第 248 号-3

「エクソソーム療法利用者における加齢性の睡眠の質の変化に対する用量反応性の検証」

④ 申請者 志村 哲祥

第 249 号-3

「ストレスチェック・睡眠健診コホートデータ分析による、睡眠およびメンタルヘルス改善要因の包括的分析」

⑤ 申請者 志村 哲祥

第 254 号-2

「精神疾患を抱える親を持つ子どもの成人期メンタルヘルスと睡眠：ケア負担・病状共有・肯定的小児期体験による緩衝機序の検証」

4. 治験審査委員会（2025 年 4 月～2026 年 3 月まで）

開催回数：7 回

- 1) 2025 年 5 月 22 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 2) 2025 年 6 月 26 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 3) 2025 年 9 月 25 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 4) 2025 年 10 月 23 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 5) 2025 年 11 月 27 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 6) 2026 年 1 月 22 日（木）： 継続の可否について 1 件
- 7) 2026 年 2 月 26 日（木）： 継続の可否について 1 件

5. 協働施設との情報共有と機能強化

以下の協働施設とは 2026 年 1 月に第一回情報交換会を行った。

- 1) 心理相談（アスファレス心理センター）では経験豊富なカウンセラーにより、相談者の自己治癒が最大に発揮できるように、心理学的知見に基づいてカウンセリングが実施された。
- 2) 調剤薬局、クリニックは外来患者や精神科単科病院の入院患者における利便性などに配慮している点で公益事業と認知されており、連携を通じて薬剤情報、副作用などの情報を共有し、診療及び研究に役立てた。
- 3) 日本精神衛生会は長い歴史を持ち、当法人の創立時からつながりのある法人である。研修会やイベントを通じて、医療、研究、教育などの点で相乗効果を期待する。

VIII. 当該公益法人の運営体制の充実を図るための取組

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」・「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等の法令及び定款等を遵守することで、自主的かつ自律的なガバナンスの充実を図っている。具体的に、理事会・評議員会開催とともに、代表理事、常任理事等で構成する法人運営会議（毎月開催）において、法人組織の在り方、その統治と整備方法について計画的、効果的に検討を行っている。さらに内部監査の一環として、外部専門家である公認会計士による月次・年次決算確認及び法人運営上の課題やその方策も検討している。